

石川県立中島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基本的な生活習慣を確立し、人間としての正しい在り方や前向きな生き方を実現する。	遅刻指導を強化する。	総務課 生徒指導 学年会	始業に遅刻する生徒がかなりおり、集会時の集いに時間がかかるなど、時間を守る観念に乏しい状況が見られ、授業の緊張感や集会時の集団行動意識の確立に影響が出ている。	【努力指標】(内部・生徒) 登校時・授業時・集会時について遅刻をさせない。	A・生徒全員が、始業・集合時間におくられることなく準備が整っている。 B・準備は整っていないが、ほとんどの生徒が始業・集合時間に遅れず時間を守っている。 C・始業時間等に遅れる生徒が少しいるため、開始時間が遅れることもある。 D・始業・集合時間に遅れる生徒が多く、なかなか態勢が整わない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	服装容儀指導を徹底する。		一部の生徒で、意識的にだらしない服装をし、恣意的な行動で、自己を顕示しようとする傾向が見られる。	【努力指標】(内部・生徒・保護者) 生徒の服装・態度・姿勢が整える。	A・平素より、全体的にきちんとした身なり・態度が見られ、生徒たちは、その姿勢が身に付いている。 B・注意は必要とするものの、ほとんどの生徒の服装・容儀が正されている。 C・服装の乱れがやや目につき、指導の徹底が十分でない。 D・服装の乱れや態度が悪く、常に注意が必要である。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	授業規律の確立を図る。		授業に集中できない生徒の中で、授業中の私語やいねむりなどが見られ、前向きで意欲的に学習に取り組めない状況が見られることもある。	【成果指標】(内部・生徒) 遅刻・立ち歩き・私語がなく、授業に集中できる環境となっている。	A・生徒全員が始業に遅れることなく着席し、私語もなく落ち着いた学習環境が保たれている。 B・授業導入時は、遅刻や忘れ物をする生徒で開始は遅れるが、ほとんどの生徒は真面目に授業に取り組んでいる。 C・遅刻・立ち歩き・私語の注意が多く、全体がなかなか集中できない。 D・遅刻・立ち歩き・私語をやめない不必要な物を片づけないなど、授業に臨む態勢が全く整わない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	清掃活動の徹底	保健指導課 学年会	美化意識が年々低下しており、清掃当番箇所の清掃を丁寧に行わない生徒が一部見られる。	【成果指標】(内部・生徒) 毎日の清掃当番にしっかり取り組めた。	A・当番清掃にしっかり取り組み、美化意識が向上した。 B・多くの生徒が当番清掃に組み込み美化意識が向上した。 C・当番清掃に取り組めたが、自主性に欠ける。 D・清掃に取り組まない生徒が目立ち、美化意識が欠如した。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	問題行動発生の防止策を講じ実践する。	生徒指導 教育相談 学年会	問題行動は、同じ生徒が繰り返すという傾向があり、再犯に至らないための対策が必要である。	【成果指標】(内部) 問題行動の発生が減り、再発もない。	A・積極的に問題行動の発生防止策を実践し、撲滅に努め、再発防止の継続指導を行った。 B・学年団等の協力体制に賛同し、未然防止策の実践に努力した。 C・時間に余裕のある時の協力にとどまり、積極的な実践に努めることはなかった。 D・問題行動の未然防止策の実践に努力したとは言えない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 基本的な学習習慣を身につけることで学習に対する意欲を高め、基礎基本の習得とともに発展的な学力も養う。	習熟度別少人数学習のメリットを生かす工夫をする。	教 務 科 教 科	個々に適した学習を行うことは、設定した到達目標の実現や達成感を持つための指導法として有効である。	【成果・満足度指標】(内部・生徒) 数学や英語の習熟度別授業は、数学を理解するのに役立った。	A・より理解できた。 B・まあまあ理解できた。 C・少し理解できない点が残った。 D・あまり理解できなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究授業・研究協議を充実する。	教 務 科 教 科	教員の日々の努力が生徒の向上につながる。教員のたゆまぬ研鑽が必要である。	【努力指標】(内部) 学習指導計画を工夫し、授業研究を計画的に実施する。	A・50%以上の教員が実施している。 B・40%以上の教員が実施している。 C・30%以上の教員が実施している。 D・実施は30%以下であった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
			予習・復習は学ぶ者の基本的態度であり、学ぶ姿勢を前向きに保つことにつながる。学習習慣を身につけさせるためにも、家庭での自主的な学習は大切である。	【成果指標】(内部・生徒) 家庭学習をする生徒が増加している。	A・ほとんどの生徒が家庭学習を行っている。 B・半数程度の生徒が家庭学習を行っている。 C・家庭学習をしている生徒はあまりいない。 D・ほとんどの生徒は家庭での学習をしていない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
			教える側の熱意は、生徒の学習意欲を刺激する。	【満足度指標】(生徒) 先生は、生徒たちの学習意欲を一層高めようと努力している。	A・ほとんどの先生が努力している。 B・努力しているのは半数ほどである。 C・少しの先生しか努力していない。 D・努力している先生はあまりいない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
			生徒の学習成果の伸長の度合いは、生徒個々によってまちまちである。遅れた生徒への対応で落ちこぼれを防げる。	【満足度指標】(生徒) 学習の遅れた所は、特別に指導してもらえないので不安はない。	A・学習が遅れても不安はない。 B・学習が遅れても不安はないと思うことが多い。 C・学習が遅れると少し不安になる。 D・学習が遅れると不安だ。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。	教 務 科 教 科	生徒の実態に合わせた分かる授業を展開することは、生徒の学習に対する興味・関心を喚起し、学習意欲を高めることにつながる。	【満足度指標】(生徒) どの授業も、わかりやすく理解できる。	A・多くの先生の授業は分かりやすく充実している。 B・分かりやすい授業をする先生は、半数以上いる。 C・分かりやすい授業をする先生は、半数に満たない。 D・分かりやすい授業が少ない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
			家庭学習の定着を図る。	教 務 科 学 年 会	与えられた課題を自分の力で成し遂げることは、問題解決能力を育成することにもつながり、自主的な学習習慣を身につけることは自立への動機づけにもつながる。	【成果指標】(内部・生徒) 課題の提出等がなされ、家庭学習の時間が定着した。	A・家庭学習が1時間以上なされ、課題提出も8割以上達成した。 B・8割以上の生徒の家庭学習が定着し、課題提出もおおむねなされた。 C・過半数の生徒に家庭学習が定着し、課題もおおむね提出されている。 D・ほとんどの生徒が家庭学習しておらず、課題も提出しない。
		図書室の利用の増大。	教 科 図 書 館 指 導 課	読書に親しむことは、いろいろな価値観や想像力そして表現力を培う上で大切な活動である。	【努力指標】(内部) 利用者数、貸し出し数が増加し、読書に親しむ生徒を増やす。	A・80%以上の生徒が図書館を利用し、読書活動が活発である。 B・50%以上の生徒が図書を借りた。 C・図書を借りる生徒は50%以下だ。 D・図書を借りる生徒は少ない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 進路に対する意識を高め、進路実現に向けた学習や体験活動を行い、社会性や自立心を育てる。	学ぶ意欲を高め、進路意識を啓発する。	教 務 進 路 学 年 会	「学ぶこと」と「働くこと」は、生涯にわたって行われることである。生涯を生き抜くための、将来への指針を自ら見つけ出させる指導は、生徒たちの未来を充実させることになる。	【努力指標】(内部) 具体的目標の提示によって学習意欲を高め、進路実現に向けて努力する態度を育てる。。	A・成績の向上、資格の取得など具体的目標の提示、助言によって全体の学習意欲と進路意識が高まった。 B・具体的目標の提示、助言によって学習や進路に対する意欲を持って取り組む生徒が少しずつ出てきた。 C・目標を持ったものの、努力する様子に甘さが見られ、意識の喚起までは到達していない。 D・目標を持たせる指導が十分でなく、意欲の増大が図れなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	生徒・保護者への進路情報の提供及び体験学習の充実を図る。		情報過多の時代であるがために、伝える情報の取捨選択が大切である。また、職場体験を通して自己の進路を考えさせる指導も必須の条件となってきた。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 全学年で、生徒・保護者個々の必要とする進路情報を提供された。 また、職場体験によって適切な進路選択が行われるようになってきた。	A・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報が十分に提供され、職場体験も進路選択に有効に生かされた。 B・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報はある程度提供され、職場体験も進路選択にある程度生かされた。 C・生徒・保護者向けの進学・就職情報が十分に提供されず、職場体験も進路選択にあまり有効ではなかった。 D・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報がほとんど提供させず、職場体験はまったく意味がなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	進路希望を明確にさせる。		進路を決定するためには、そのための準備として、情報の収集・実地見学・決定に向けた学習活動などが欠かせない。そして、これらの活動に意欲的に取り組むことが目標達成につながる。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 進路希望を明確にして、実現に向けての努力する姿勢が見られる。	A・ほとんどの生徒が進路希望を明確にし、その実現に向けての努力をし始め、学習態度・生活態度が良くなった。 B・多くの生徒が進路希望を明確にしたものの、実現に向けての努力にまだ甘さが見られる。 C・全体的に進路希望を明確にして行こうとする様子はあるが、未だ学習態度・生活態度の改善が見られない。 D・進路希望を明確にせず、目的意識を持たない生徒が多くいる。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	進路に応じた個別指導を充実させる。		近年、上級学校への進学は、易化状況になっている。そのため、大学の講義についていけない基礎学力不足の学生が多く誕生している。また、就職試験では一般常識テストの成績が悪く、不採用となるケースも見られる。	【満足度指標】 (内部・生徒・保護者) 作文(小論文)、面接の指導が計画的に行われるとともに、進学希望者に対する模擬試験と個別指導が適切に行われ、意欲及び成績が向上した。	A・意欲及び成績が大変向上した。 B・意欲及び成績がかなり向上した。 C・意欲及び成績が少し向上した。 D・意欲及び成績の向上がほとんど見られなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 演劇教育を通して、自己表現やコミュニケーション能力を高め、人間形成を図る。	演劇の授業の工夫と充実を図る。	総務 教務 演劇教育推進	マンネリ化した授業は、生徒の意欲ばかりでなく、教える側の意欲をも減退させる。常に新しい工夫を加えることで、新鮮な気持ちで生徒も先生も授業に臨むことができる。この新鮮さが、表現への意欲につながる。	【努力指標】(内部) 授業の工夫と充実を図ることで、生徒の表現に対する意欲を高める。	A・授業の工夫と充実が図られたことで、生徒の表現に対する意欲が高まった。 B・授業の工夫と充実がある程度改善されたことで、生徒の表現に対する意欲もある程度高まった。 C・授業の工夫と充実があまり改善さなかったことで、生徒の表現に対する意欲もあまり高まらなかった。 D・授業の工夫と充実が改善さなかったため、生徒の表現に対する意欲も高まらなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	成果発表としての卒業公演を成功させる。	演劇教育推進	卒業公演の準備は、約1年間かけて行われる。そのため、計画を立てて準備を進めて行かねばならない。このようにして進められた公演の成否が生徒の人格形成に大きな影響を与える。	【成果指標】 (内部・生徒・保護者) 演劇教育の集大成としての卒業公演が成功裏に行われた。	A・計画・準備・本番を通じた活動全般が順調に進められたことで、公演そのものが大きな成功を収めた。 B・計画・準備・本番を通じた活動に少しい滞があったものの、公演はかなりの評価を得た。 C・計画・準備・本番を通じた活動に滞があったことで、公演そのものも、よい出来ではなかった。 D・計画・準備・本番を通じた活動にかなりの滞が生じたことで、公演が不調に終わった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	卒業公演終了後に評価を実施。
	ボランティア活動としての外部公演を行う。		生徒の外部公演は、生徒のコミュニケーション能力を育てる上で大切な活動である。さらに、奉仕の精神を育てる上でも有効な活動である。演劇教育の最終目的は、人格の形成にあることは言うまでもない。	【満足度指標】 (内部・生徒・保護者) 外部公演が活発に行われ、奉仕の精神も向上している。	A・生徒たちは、外部公演に積極的にでかけ、表現力を高めるとともに奉仕の精神が大きく向上した。 B・生徒たちは、外部公演にでかけることで、表現力のある程度高めるとともに奉仕の精神も身につくようになった。 C・生徒たちは、外部公演にあまりでかけたがらないため、表現力向上に対する意欲も高まらず、奉仕の精神もあまり身につけていない。 D・生徒たちは、外部公演にでかけたがらず、表現力向上に対する意欲も乏しく、奉仕の精神も身につけていない。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	
	演劇教育の広報活動の工夫と充実を図る。	教育統計広報 演劇教育推進	演劇教育実施以来5年間が経過したが、入学者数が伸びない。	【努力指標】(内部) 演劇教育の広報活動が奏功して、多くの県民が演劇教育を支持し、入学者が増えた。	A・広報活動が入学者数を増やすことに貢献した。 B・広報活動が入学者数を増やすことにある程度役立った。 C・広報活動が入学者数を増やすことにあまり役立たなかった。 D・広報活動が入学者数を増やすことに役立たなかった。	Aの評価が50%に満たず、B以下の評価の計が50%以上の場合は、取り組みを見直す。	